

学校生活に適応が難しい子どもへの支援に関する研究 ー 生活支援コーディネーターの役割から ー

学籍番号 229111
氏名 田坂圭祐
主指導教員 水野治久
副指導教員 陸奥田維彦

1. 問題と目的

実習校には「不登校や登校渋りをはじめ、学習面・生活面ともに学校生活に適応することが難しい子どもへの個別対応」という課題がある。いわゆる、課題のある子どもの背景は多様であり、その子どもや保護者への対応は複雑化している。そのため、学級担任や特別支援担当だけで対応することは困難であり、学校としてチーム支援をする必要がある。そこで、実践課題研究の目的は「課題のある子どもへの支援を行う時の生活支援コーディネーター（以下、生活支援Co）の役割について明らかにする」とした。

研究1では、学校生活への適応に課題のある子どもへの支援を検討する場での会議記録を分析することを通して、子どもへの支援を検討する場での生活支援Coの役割を明らかにした。研究2では、子どもに関わる情報共有の仕方の工夫や新たな支援を検討する場の設置を通して、課題のある子どもへの見立てや支援方針、具体的支援方法を考える場での生活支援Coの役割について検討した。研究3では、生活支援Coの行動記録を分析することを通して、教育活動全体の取り組みの中で生活支援Coが担う主な役割について検討した。

2. 実践研究

【研究1】子どもへの支援検討における生活支援Coの役割

目的 学校生活への適応に課題のある子どもへの支援を検討する場での生活支援Coの役割を明らかにするために、会議記録を分析する。

方法 生活支援Coが内容を記録したメモを各Coが発言した意図に着目して整理・分析し、その分類から生活支援Coに求められる役割について抽出する。

結果・考察 支援を検討する会議での発言は「子どもの状態」「保護者からの情報」による【状況共有】、「教員が行った対応」「学年・学級として今後の取り組むこと」による【対応共有】、「学校として対応すべき情報」による【情報共有】に留まっていた。その結果から生活支援Coのコーディネーション行動は個別支援チームレベル・システムレベルともに十分な役割を果たせていないことがわかった。会議自体の改善点を整理し、子どもの支援を検討・実施につなげる会議において生活支援Coに求められる役割は、①それぞれの発言を子どもに対する具体的な対応に結びつけること②現時点で対応できる目的を設定すること③話し合う内容を明確にすること④必要な子どもに関する情報を集めること⑤情報収集を行う体制を整えること⑥子どもへの対応を適宜検討し、修正することの6つが明らかとなった。

【研究2】個別の支援会議における生活支援Coの役割

目的 課題のある子どもへの見立てや支援方針，具体的支援方法を考える場での生活支援Coの役割について検討する。

方法 子どもの事例を限定し，情報の収集や共有する方法を提案・実施する。新たな会議として個別の支援会議を設定し，子どもの見立て，支援方針，具体的支援方法の検討をする際の生活支援Coの役割について検討する。

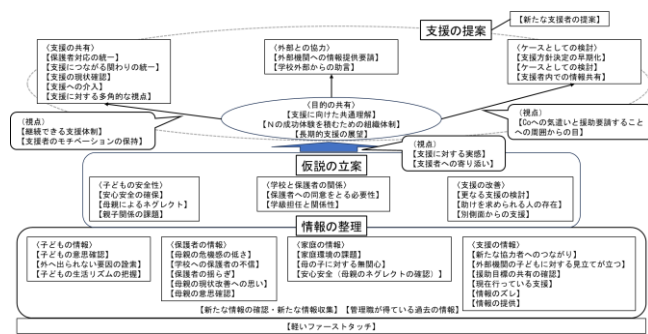
結果・考察 生活支援Coが課題のある子どもの支援を検討する場での役割として，①行動の記録の仕方を工夫すること情報共有を促進すること，②インフォーマルな時間を利用して情報の収集や調整をすること，③他の会議と連携を見出して，支援者を広げることの3つを抽出した。

【研究3】学校全体の取り組みにおける生活支援Coの役割

目的 教育活動全体の取り組みの中で生活支援Coが担う主な役割について検討する。

方法 教育活動における生活支援Coの動きを記録したものをプロセスレコードの手法で分析し，生活支援Coの役割を果たすために必要な行動と視点について検討する。

結果・考察 生活支援Coが教育活動全体の取り組みの中で担う主な役割は「情報の整理」，「仮説の立案」，「支援の提案」であった。また，この生活支援Coと学級担任・特別支援担当で行う子どもへの支援は子どもの見立てと支援目的の決定を繰り返す中で，チーム支援へと発展していくため，研究2で明らかになった生活支援Coが課題のある子どもの支援を検討する場での役割につながる。



3. 総合考察

本実践課題研究の結果，生活支援Coの役割には大きく分けて，「コア援助チーム段階での生活支援Coの役割と視点」と「支援チームを拡大した段階での生活支援Coの役割と視点」の2つの段階があることがわかった。

「コア援助チーム段階での生活支援Coの役割と視点」では，日常生活の一場面で見守りや教職員と話すことで相談することへの抵抗を軽減し，「情報の整理」と「仮説の立案」を繰り返す中で，支援者で「目的の共有」を行う。それをもとに「支援の提案」へと展開していく。この「支援の提案」には第1支援者の納得が必要である。また，これらの役割を果たす上で，生活支援Coは外部機関（区役所や福祉サービスなど）の協力が必要となってくる。生活支援Coの役割として，それらの機関とつながりをもつことも重要である。

「支援チームを拡大した段階での生活支援Coの役割と視点」では，コア援助チームから個別の支援会議に展開する基準は，支援を協議する支援者が学級担任や特別支援担当と生活支援Coだけでは不十分であると判断した場合が適切であるとした。生活支援Coの主な役割として「協議のコーディネーター」が求められる。その役割が「情報共有の仕方」と「会議の進め方」に発揮されていた。情報共有ではフォーマットの設定や支援者が記入しやすい環境を作り，会議の際には支援方法の決定を支援者にしてもらえるように生活支援Coは配慮する。